

ぬいぐるみを通じて “心の拠り所”のかたちを探る

池田研究室

223103 福田 結羽

目次

研究テーマ	2
研究背景	4
調査内容・分析	8
(1)日本におけるキャラクター文化の発展	...	9
(2)推し活の発展	...	14
(3)信仰・偶像の歴史	...	16
(4)調査・分析からデザインへの応用	...	18
デザインへの応用と制作概要	19
参考文献・サイト	33

研究テーマ

ぬいぐるみを通じて
“心の拠り所”のかたちを探る

| 目的

本研究は、人がモノや存在に感情や願いを託す心理構造に着目し、それを信仰(偶像)・キャラクター文化・推し活へと連なる歴史的文脈の中で捉え直すことを目的とする。

その構造を「ぬいぐるみ」という身体性を持つメディアによって具体化・再解釈する試みである。

| 方法

文献調査および分析を通して理論的考察を行い、その結果をもとにデザイン実践を行う。最終的には、キャラクター設計およびオーダーメイドのぬいぐるみとして立体化し、心の拠り所を具体的なかたちとして提案する。

研究背景

| キャラクター文化の発展

戦後日本において、キャラクターは商品や記号として誕生。次第に物語性や人格を持つ存在へと変化してきた。アニメやマンガ、ゲームなどを通じて、キャラクターは「モノ」から「誰か」として認識され、人々が感情を投影し、心情的な結びつきを持つ対象となっている。

| 推し活と信仰に共通する心理的構造

近年広がる推し活文化には、特定の人物やキャラクターへの崇拜、自己投影、精神的救済といった、宗教的信仰と共通する構造が見られる。

推しは、不安や孤独を受け止め、前向きに生きるために心の拠り所として機能している。

| 信仰とモノの役割

現代社会では、宗教に代わり、個人が選び取った対象が精神的支柱となる「信仰の個人化」が進んでいる。その中で、モノは安心感や癒しを与えるだけでなく、自己を表現し、日常の中で無意識に心を支える存在として重要な役割を担っている。

こうした心の拠り所を具体的なかたちとして提示するメディアを作りたいと考えた。その中で注目したのが「ぬいぐるみ」である。ぬいぐるみは、見るだけでなく、触れる、抱く、共に過ごすといった身体的な関わりを持つ点で、他のメディアとは異なる特性を持つ。柔らかさや重さといった感覚を通して、心の拠り所という抽象的な概念を、実感を伴う存在として具体化できると考えた。

| 私自身の個人的背景

地元が寺町であり、幼少期から仏像や仏教的な存在が生活の中に自然にあったことも、本研究の関心に影響している。仏は常に身近にあり、祈る対象であると同時に、静かに見守る存在でもあった。

そして現在、私自身も推し活に熱中している。そのためモノに対する気持ち、ひいては、ぬいぐるみに対する特別な役割や感情を身をもって体感している。

この経験から、信仰的な構造や「拠り所」という概念に対して、無意識のうちに親しみを持っていたと考えられる。

以上の背景から、キャラクター文化、推し活、信仰の個人化、そして自身の原体験を重ね合わせることで、今回の研究テーマ・提案に至った。

調査内容・分析

- (1)日本におけるキャラクター文化の発展
- (2)推し活の発展
- (3)信仰・偶像の歴史
- (4)調査・分析からデザインへの応用

| (1) 日本におけるキャラクター文化の発展

1. 企業系キャラクター

企業や商品の宣伝を目的としたキャラクター。

- ・森下仁丹「外交官キャラ」、足袋の「福助」がルーツ。
- ・昭和25年、不二家「ペコちゃん」“カワイイキャラ”元祖。

企業理念・商品コンセプトを親しみやすく伝え、

企業と消費者をつなぐ役割をキャラクターが担う。

→無機質な企業イメージを

人間味あるキャラを通して伝える日本独自の文化

| (1)日本におけるキャラクター文化の発展

2. マスコミ＆メディア系キャラクター

マンガ・アニメ・デジタル作品の

登場人物として生まれ、大衆の人気により**独立**。

- ・「のらくろ」：昭和初期に登場、戦後もさまざまな形で活躍。
- ・「ドラえもん」：教育・企業CMなど多分野で活動。

キャラクターがストーリーに依存せず“ひとり歩き”できる存在に。

→作品を越え、世界的な文化アイコンへ成長するキャラも。

| (1)日本におけるキャラクター文化の発展

3. 玩具＆グッズ系キャラクター

商品のために開発されたオリジナルキャラ。

購買層の憧れや心情を反映。

・「リカちゃん」：高度経済成長期の女の子の理想像を投影。

・「ハローキティ」：世界的人気、生活雑貨を通して浸透。

・「たれぱんだ」「リラックマ」：癒し系キャラとして

バブル崩壊後の社会に支持。

無表情(むひょキャラ)の誕生

…「感情を押しつけず見守る」存在。心の癒し・共感を提供

| (1)日本におけるキャラクター文化の発展

4. 公共系キャラクター

公共事業やイベントの広報支援を目的とする。

- ・NHK「どーもくん」
- ・警察「ピーポくん」
- ・愛・地球博「モリゾーとキッコロ」

公共機関がキャラを用いるのは日本独自。

「子どもと大人の娯楽の境界が曖昧」という国民性が背景にある。

街中にキャラが溶け込み、人々に親近感と安心感を与える。

現代は

“生活のあらゆる場面に
キャラクターが存在する社会”

キャラクターは単なる広告や娯楽ではなく
日本人の心情・価値観・社会の変化を映している

| (2) 推し活の発展

「推し活」とは

アイドルやキャラクターなどの「推し(ご贔屓)」を
愛でたり応援したりする、「推しを様々な形で応援する活動」

社会現象化する「推し活」

アイドルやキャラクターだけでなく幅広い企業のPRに
「推し活」に関するフレーズが使用される。

オリジナルグッズやCD・DVDの売上だけではない消費活動
多くの企業は、「推し活」の経済効果に大きな期待を寄せる。

| (2) 推し活の発展

具体的な活動・行動の例

【逢う】ライブ・舞台・DVD・配信映像を鑑賞、聖地巡礼、
ファンレター・プレゼントを贈る

【触れる】グッズを購入・コレクション、コラボイベント

【染まる】推しと同じものを所有、イメージカラーの物の収集

【広める】SNSで推しの魅力を語る、推しを他人に布教する

【感じる】一人静かに推しのことを想う
推しが生きて存在していることに今日も感謝する

→推しへ向ける感情が信仰に近い。偶像崇拜、神格化

| (3) 信仰・偶像の歴史

仏像と偶像の機能

象徴を通じて信仰・救済・秩序を伝える装置。

印相や手数・顔面構成などの造形要素が、それぞれ特定の機能・徳性を象徴することで、信仰者的心を安定させてきた。

遣唐使・空海／最澄を通じた密教

平安期における空海(弘法大師)や最澄の唐での学びは日本に密教的な偶像觀を持ち込んだ重要な契機。

曼荼羅や諸尊像(護法神や多腕尊など)は、儀礼と共に「視覚的に救済を提示するメディア」として機能。

| (3) 信仰・偶像の歴史

「怖い顔」「多腕」などの造形的意味と社会機能

毘沙門天や面相が鋭い護法尊などの“恐ろしさ”

→悪や疫病に対する防御を視覚化する役割。

多腕・多面の造形

→「多方面から救う」「多様な悩みに対応する」という象徴性

(例:阿修羅の三面六臂、觀音の多面多臂)。

“視覚的なメディア”、“個性の集合”という構図は、
現代のキャラクター機能の構造と親和性が高い。

| (4)調査・分析からデザインへの応用

キャラクターと仏像と心の拠り所(推し活)の親和性から

キャラクター文化
仏教的デザインルール

これらの要素を抽出、組み合わせることで
新たなメディア、デザインを生み出せると考えた。

デザインへの応用と制作概要

| デザインコンセプト

「拝む」から「触れる」へ
仏像が果たしてきた「形ある安心」を
キャラクターとして再解釈
ぬいぐるみで新たな心の拠り所を作る

| デザインルール

- ・表情を抑え、感情投影の余白をつくる
- ・手印、役割などの仏教的造形ルールを象徴的に再構成
- ・柔らかい素材、重さ、触感によって安心感を表現

補足：ぬいぐるみによる心理的効果

安心感・癒しの効果

無意識に「寄りかかれる対象」として認識
脳に安心・保護感を与える・心が安定

感情の整理

抱きしめる・触ることで
「感情の受け皿」としての役割がある

孤独感の軽減

“そばにいる感”
話しかけるなどの行動が、孤独を緩和する

自己肯定感の回復

そばにいてくれる存在 → 自己肯定感
「自分の一部」として受け入れやすい

| キャラクター構成

仏像の要素である、如来・菩薩・明王・天部を
推し活や癒しの感性で再解釈したキャラクターシリーズ

やすらぎ(菩薩):寄り添う存在

みそら(如来):包み込む存在

ぬくもり(明王):力を与える存在

かがやき(天部):未来へ導く存在

自分と向き合い、心を整え、ぬくもりを得て、希望を得る
——心の旅の物語を体験として提示する

佛教のルール上、如来・菩薩・明王・天部の順であるが、再解釈を進める中で
寄り添う存在が最初にいて欲しいと思い、今回は元菩薩であるやすらぎをはじまりとしている

| タイトル・プロローグ

あまゆらフレンズ

あまねく宇宙のどこかに

ちょっと変わった住人が暮らす星がありました。

ゆらゆらと漂う夢の中でその星に辿り着き、出会ったのは

あたたかく、やさしく、ぬくもりをくれる住人たち。

人でも、動物でもない不思議な形をした彼らを

あまゆらフレンズ

と呼ぶことにしました。

amayuri'a
friends

| ロゴ

あまゆ
アレーブ

あまゆアレーブ

やすらぎ みどり ぬくもり かかげやき



菩薩

慈悲の心で人々を助けながら
自らも悟りへと高まっていく。
温和な相貌で表される。



〔そっと寄り添ってくれる存在に〕

性格は思いやり深く、少しおっとり。
やすらぎさんは、いつもあなたのことを
気にかけ、そばにいてくれる存在です。

参照：弥勒菩薩半跏思惟像・広隆寺

や
す
ー
き



思索にふける手の形

U字型の閉じた目で穏やかさを

台座に片足を組んで座る

触覚・視覚的に落ち着きを感じる
自然色の緑とマットな質感





如来

真の悟りを得た者。
信仰する者に多くの問い合わせを
投げかける。

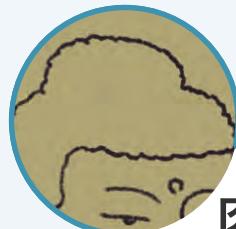


静かに包み込む存在に

性格は穏やかで静か。
みそらさんは、全てを受け止めて包み
込み、安心感をくれる存在です。

参照：釈迦如来坐像・伝香寺

甘美らじ



肉髪・白毫



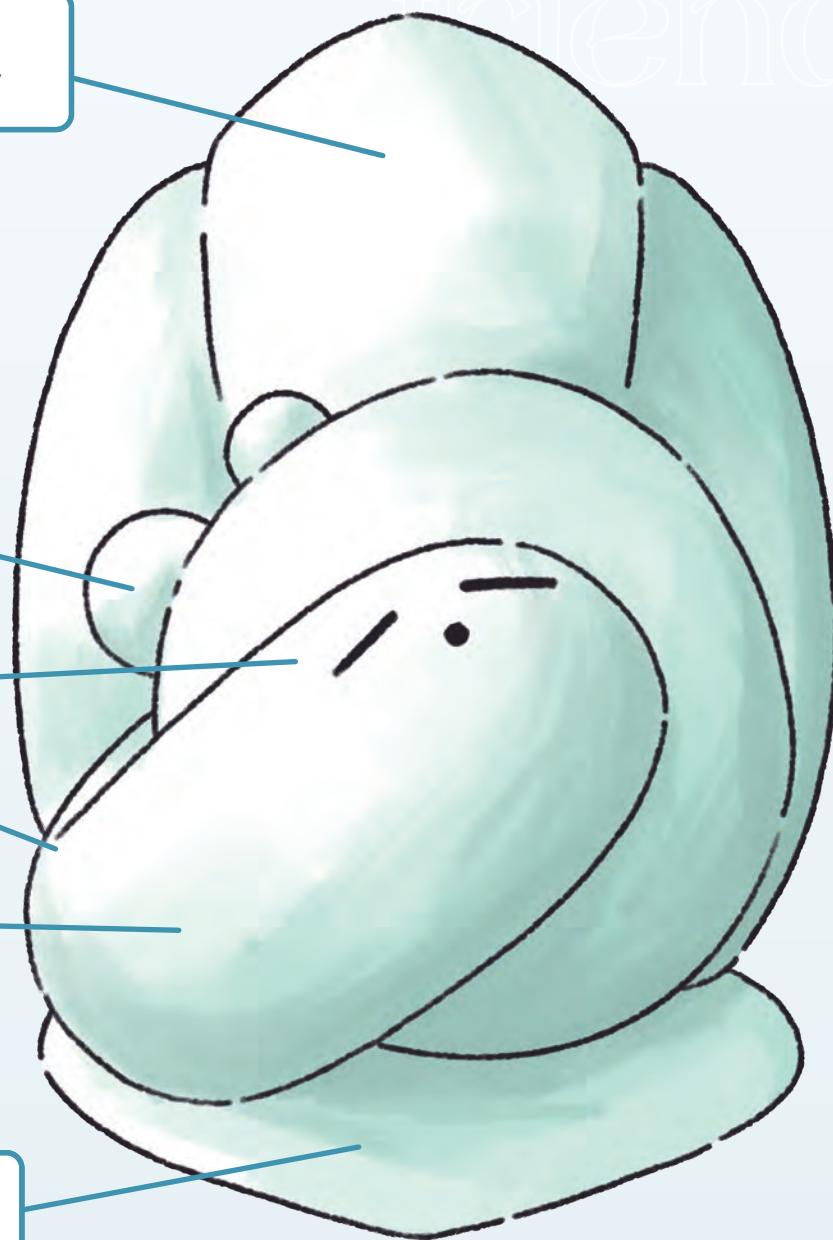
三道



蓮弁

全てを受け止め、
包み込んでくれる目と形

螺髪をボア素材で表現





明王

力によって人を導く。
煩惱を焼き尽くす炎を背負い、武器を持つことが多い。

元気をくれる存在に

性格は元気でちょっと不器用な仲間思い。
ぬくもりさんは、その性格の温かさから
毎日を頑張る力をくれる存在です。

参照：不動明王像・大本山成田山新勝寺

ぬくもり

amavui'a
is

元気いっぱい
力強さを感じるポーズ

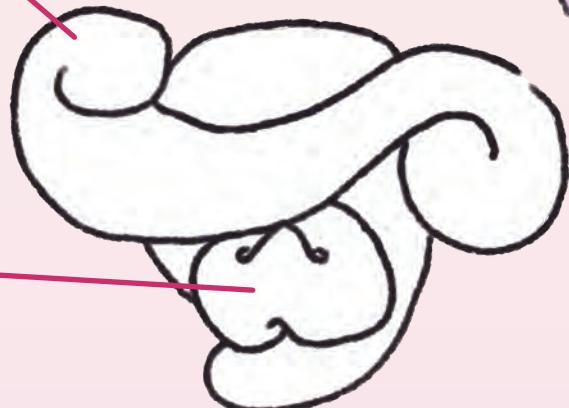
暖色のボアを用いてあたたかさを



剣等の装飾



うしろ姿





※天部は、特徴や装飾・役割に至るまで多種多様な神々で構成されている。

今回は毘沙門天を抜粋しキャラクターデザインに落とし込んだ。

天部

人間に最も近い立場。
仏教の前身の神々が起源。
教えを守護する。



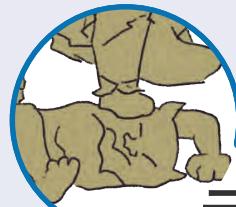
希望や勇気をくれる存在に

性格は自由で好奇心旺盛。前向きで毎日
を楽しんでいる。かがやきさんは、
明日を照らしてくれる存在です。

参照：毘沙門天立像・奈良国立博物館

かかやき

amayura
friends



元邪鬼。
相棒として再解釈



より手足らしい動きを意識したポーズ

宝棒を持つ手等の
シルエットの抽象化



参考文献・サイト

- ・ pen 『pen with new attitude No.368』 CE メディアハウス, 2014
- ・ Begin 『nui nui nui ! 大人だってぬいぐるみが好き !』 世界文化社, 2025
- ・ Begin 『nui nui nui ! 大人だってぬいぐるみが好き ! vol.2』 世界文化社, 2025
- ・ 推し活とは？推し方の種類や楽しみ方をわかりやすく解説！
https://www.trans.co.jp/column/goods/oshikatsu_study1/
- ・ 大人にこそぬいぐるみ？癒しの効果を解説
<https://driving-maul.co.jp/lp/column/stuffed-animals-for-adults-healing-effects/>
- ・ 仏像の“手”の意味 — 印相（いんぞう）ってなに？
[https://shoraku-ji.com/ 仏教にまつわるお話 /1084/?utm_source=chatgpt.com](https://shoraku-ji.com/)
- ・ 天台宗と真言宗の違い 同じ密教なのにどこが違う？
<https://chieumiplus.com/article/irasutobukkyo19>
- ・ 『仏尊の辞典 壮大なる仏教宇宙の仏たち』 学研プラス, 1997
- ・ 『仏尊のご利益・功德辞典』 学研プラス, 2008
- ・ 佛教入門ドットコム
<https://butsuzo-nyumon.com/mudra>